

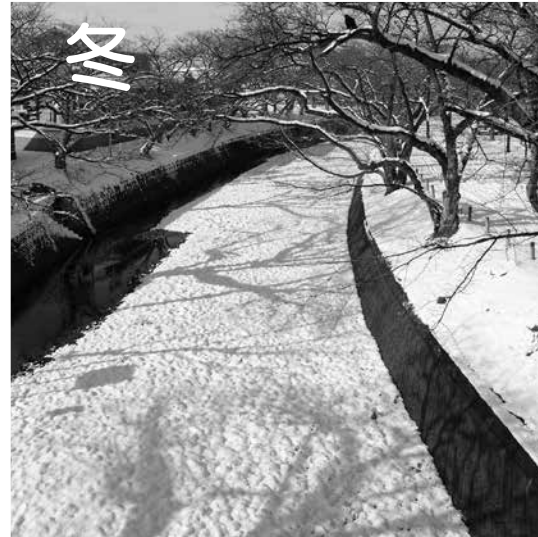
春



夏



秋



冬

カワセミ



セキレイ

プロジェクトの記録

木こり2
プロジェクト

五条川水と桜の
プロジェクト

木こり
プロジェクト

大口町は、これまでさまざまなプロジェクトを立ち上げ、
職員がチームを組み事業を進めてきました。

五条川水と桜の プロジェクト

先月号でご紹介した「木こりプロジェクト」
に引き続き、今月号では同時期に活動した「五
条川水と桜のプロジェクト」をご紹介します。

この活動は、その名のとおり、五条川の「水」
と「桜並木」が抱える問題を検討し、解決に向かっ
ていこうという取り組みです。

五条川の水を守れ

大口町を南北8キロにわたって流れる五条川。
桜並木だけでなくカワセミやセキレイなどさま
ざまな生物が生息し、町民の心を癒す風景となっ
ています。水源は犬山の頭首工から木津用水を
経て流れ込む水と、岐阜県多治見市の北小木川
から入鹿池を経て流れ込む水です。元は農業用
水で、10月半ばから翌3月までは落水期で、急
激に水位が下がり、冬場には「水涸れ」が見ら
れるようになってきました。酸欠による魚の死
がいや臭いなど環境に対する問題が発生するよ
うになったため、町は、通年の安定した通水を
確保することはできないかと「五条川水と桜の
プロジェクト」を立ち上げ、現状把握に努め、
主に2つの原因があることがわかりました。

1つ目は、近年、下水道が整備され、五条川
に流れ込む生活用水が減ったこと、2つ目は、

木こりプロジェクト

北保育園建て替え事業に向け発足

五条川・水と桜のプロジェクト

五条川堤の桜並木の保存を検討する「五条川水と桜のプロジェクト」

「五条川水と桜のプロジェクト」の取り組みを引き継ぐ「木こり2プロジェクト」を発足

木こり2プロジェクト

この桜並木は、大口村だった昭和28年（1953年）に、当時村長だった社本鋭郎氏（後の初代町長）が、南北に長く、分断されていた大口村の住民をひとつにまとめる拠り所にしようと自費で植樹を始めたのがきっかけです。植樹当初は1mほどだった苗木が何年

毎年見事な花を咲かせ、「さくら名所100選」に選ばれている五条川の桜並木。大口町といえば桜、というほど桜は町のシンボリック存在となっており、毎年、開花期になると近隣だけでなく遠方からも大勢の花見客が訪れます。

町民の心のよりどころ、「五条川」と桜並木

元来生産工程で多くの水を使っていた町内の企業の生産工程が変化し、工業用水の排水が減ったことで、五条川に流される水の絶対量が大幅に減少したことです。現時点で、大口町に水利権がないため木津用水からの取水は難しく、水利権を得るためにはダム建設などへの出資が必要となります。井戸を持つ企業に五条川への排水の協力を求めましたが、環境への問題もあり、課題として残っているところです。



八佐の津島社



高橋の諏訪社

桜並木を守れ

五条川に植えられた桜の木の品種はソメイヨシノです。ソメイヨシノの寿命は、通常50年から60年といわれ、現在、町内の桜並木は植樹以来70年が経ち、次々と

もかけてすくすくと成長し、やがて春にはこぼれんばかりの花を咲かせるようになり、町制20周年の昭和57年（1982年）には「町の花」となりました。平成25年にはプロジェクトの働きかけで県の占用許可をとり、五条川の桜並木は正式に大口町の管理下となりました。現在では、町内で1674本（令和5年6月現在）の桜の木が、町内の団体よって草刈りや剪定、間伐などのケアを受けながら素晴らしい景色を作り出してくれています。



平成30年の台風21号で倒れた桜

寿命を迎えています。ここ数年程は、毎年30本から50本ほどが腐ったり病気になるり、保全のため伐採せざるを得ない状況になっていきます。特に平成30年（2018年）の台風21号では、弱っていた木が15本も根本から倒れるという被害がありました。

「五条川水と桜のプロジェクト」では、桜の植え替えを計画。ソメイヨシノは連作を嫌うため、違う品種の桜での植え替えを検討しました。そこで、樹齢100年を超える3本のエドヒガン系の桜に注目しました。「八佐の津

島社」、「高橋の諏訪社」、「新田」の3か所に単体で生えている巨木です。平成26年(2014年)、住友林業(株)に依頼し、3本の桜の木のDNA鑑定をしたところ、3本のうち2本(八佐の津島社)と「高橋の諏訪社」が遺伝的に近縁で大口町古来の品種であることが判明。同社にクローン培養による苗木を育ててもらい、後継木とすることにしました。平成29年(2017年)には一般公募で社本鋭郎氏の名前から一字を取った「おおぐち観鋭桜」と命名され、商標登録されました。

補植で桜並木を守る

クローン培養から3年がたった平成31年、苗木は植樹可能な1mあまりへと成長しました。成長した400本の苗木は「五条川の桜並木の保全のため伐採した跡地に植える」「木こりプロジェクトによる補植」という2本柱で植樹することになりました。

木こりプロジェクトへ

木こりプロジェクトは、住民、企業、町の協働による北保育園の建て替えという使命を終え、取り組みは木こり2プロジェクトに引き継がれました。このプロジェクトでは、おおぐち観鋭桜を多くの人に知ってもらうためのPR活動や、五条川の桜並木の保全活動をおこないました。

平成31年竣工を迎えた「多世代が集う憩い広場」と令和5年に竣工を迎えた「役場南ひろば」においてもおおぐち観鋭桜の植樹がおこなわれました。また、町内だけではなく、姉妹都市である島根県松江市にも友好のあかしとして植樹されました。



多世代が集う憩い広場



修学旅行で訪れた松江市で中学生が植樹



住民と木こりプロジェクトによる補植作業



五条川に架かる花見橋

令和5年には、町制60周年の記念として、五条川に架けられた「花見橋」の上部に「21世紀創造の森」から切り出した木材が使われました。

取材にて

かつて大口村が小さな農村地帯だった頃に当時村長だった社本鋭郎氏による最初の1本から始まった桜並木。やがて大口村は大口町となり、初代町長となった氏による企業誘致などの政策によって県下有数の豊かな町へと成長し、昨年度、町制60周年を迎えました。桜並木は、今や春になると五条川の堤からあふれんばかりに咲き誇り、見事な景観で観光客を集めています。桜並木の歴史は、そのまま大口町発展の歴史といっても過言ではありません。

その桜並木が寿命を迎え、今新たに大口の古来種の桜が見出され、その遺伝子を継ぐ新しい苗木が多くの人の手により大切に育てられています。いつの日か、現在の桜並木がこの古来種の若木に世代交代する日がくることでしょうか。

先人たちが守り育て、私たちに残してくれた素晴らしい遺産を私たちもまた次の世代に引き継いでいけるよう、今なお町民の心をひとつにしている五条川と桜並木にいつとき思いをはせてみませんか。